Japan Offical Fishing Instructer Osaka

じょふぃおおさか

JOFI OSAKA

Vol. 40

平成29年 秋号

2017（平成29年）9月1日発行

発行者：大阪府釣りインストラクター連絡機構　本部：〒579-8012　大阪府東大阪市上石切町1-3-23　tel&fax 072-943-1865（編集責任者：広報部田隅）

＝JOFI活動に若い血を＝

來田仁成（大阪府釣りインストラクター連絡機構代表）

ＪＯＦＩ大阪会員のみなさま、黒潮の大蛇行や台風の長期にわたる停滞など天候不順に悩まされたこの夏でした。一方で大阪湾や瀬戸内海の高温や北東風が原因の貧酸素、苦潮気味の海、例年夏に起きるイガイの層の剥落の温暖化や災害発生など、なんとなく慣れてしまって、あきらめ気味になっていますし、雨不足とその反面の局地的集中豪雨によるアユの不振については、このところようやく落ち着いたものの、シーズン末を迎えています。

長年海の様子を見守ってきた遊漁船業者兼漁業者の長老たちは、海の様子が昔にくらべ1か月ほども後ろにずれてきていると言っているようです。そうした荒れ気味の自然環境のなかでも、私たちと同じく環境ボランティアの仲間たちのアマモ場を復活させる活動は着々と成果をあげ、キビレチヌやセイゴの産卵、幼魚の定着、とりわけ、ガシラ、タケノコメバルの生息数増加は全国的な高い評価を受けるようになってきます。また、一昨年の研修でレクチャーを受けた「アミノ酸コンクリート漁礁」も最近テレビなどで紹介される機会が増えて注目を集めています。

JOFI大阪やその周辺の仲間たちは、いわば環境破壊に反対を表明するだけの活動ではなく、問題の解決に向けて積極的に行動する最先端に位置しているといえるでしょう。これからも、そうしたフォーラムへの参加についてご協力をお願いします。もう一つの釣りインストラクターならではの活動として「子供たちを中心に若い釣り人を育て、釣りを通じてマナーや安全の基礎知識を普及する活動」についても地域の少年たちの釣り体験会、ボーイスカウトの釣り章講習などの指導に多忙な時間を割いていただくことで全国的に評価の高いJOFI活動として注目を集めています。これも皆さま方のボランティア活動へのご理解と積極的な行動の賜物であり、深く感謝しております。

ただひとつ気になるのは、参加いただける皆様の高齢化に関する問題です。若い釣り人たちにこうしたボランティア活動に参加を促すための社会条件はますますゆとりを失う方向にあるようです。釣り自体もまた日を追って変化し、遠からずルアー釣りを中心とした行動が増えていくと思われます。そうした時代の変化にどう対応していくか、そのためにJOFI資格そのもの改革が求められようとしています。今後そうした面でも皆さまの御意見提案、ご協力を期待しております。

さて今年度は釣りを取り巻く諸官庁の動きにも変化が生じています。たとえば海上保安庁では「小型船舶運転者の業務内容」を一部変更し、平成30年度から施行する方針です。わかりやすくその内容の一部を説明しておきます。

小型船舶や遊漁船の乗船者（利用釣り客を含め）全員が船上では必ず「法定の救命器具」を着用しなければならない、と改められました。もちろん法の上ではわたしたち利用者ではなく船長の責任にかかる事項ですから関係がないといえばそれきりです。しかし現実には磯釣り用に「ライフジャケット」が販売されており、釣りの世界ではかなり普及しています。だが、今後は利用者＝釣り客（乗合船、仕立船船、磯・瀬渡船、マイボート、いかだ釣り、海上釣り堀のいかだなどの）にも運輸省型式承認を受けた正式な「救命器具」（いわゆる検査もの）を着用させなければならないわけです。

ご承知のように小型船舶（ボート、漁船、遊漁船を含む）では「法定救命具を用意しなければならない」であったわけですが、今回の改正で釣り客が自分の「ライフジャケット」を持参して着用する場合も「法定救命具」でなければならないことになります。「ライフジャケットの定義は通産省が必要と認めた浮力を持つもの」であればよく、いま、冬場や磯兼用で自分用として購入している「ライジャケ」はこれにあたります。しかしこれとは別に輸入物で形ばかりのものが存在するのも事実です。多分これが問題なのでしょう。それとライフジャケットさえ着けていれば未然に防げたに違いない事故もこの夏のニュースでいくつかありました。だが、一般常識としていわゆる釣り師の間ではようやく普及定着した「ライジャケ」です。ポケットがついていてデザインや色彩も豊富で愛用者の多いこのライジャケが、5年間の猶予期間を経てとはいえダメになる、というのはいささか抵抗を感じるものの、こと安全を守るということがテーマだけに反対する理由はありません。

すでに規則として定められた事がらですから、遵法の姿勢を原則としているわれわれJOFIとしては守らざるを得ないわけです。

一見判別の困難であろう「法定救命具」と「ライフジャケット」の差をだれが、どのようにして見つけ、取り締まるのかという点を取り締まりの現場の人に聞いてみましたが「ほぼ不可能ですから、当面はみたところ着用していればそれ以上は追求しないでしょう」という非公式な見解でした。

しかし、一旦事故が起きてしまえば「法定救命具不着用」という利用者側の瑕疵になり、当然保険の支払にも問題が生じるであろう可能性があります。

施行されるまでに全く硬直した縦割り行政そのもののような「変更」には理解できないものがあります。

わたしたちがライジャケを購入する時、サクラマーク付きを選ぶことのほかは、せいぜい遊漁船業者に向けて、保険に入る際に保険業者に適切な対応を求める項目を付加することを確認するようアドバイスしておくことしか、釣り人団体ができることはないというのが結論です。

JOFI大阪のみなさん、ボランティア活動以外のこうした様々な動きに注目とご協力をお願いしておきます。

報告 1 フィッシングショーOSAKA(H29-2/4～6)

日本最大級の釣りのビックイベント「フィッシングショー大阪2017」が、2月3日～5日大阪南港インテックス大阪にて 開催されました。今年のフィッシングショー大阪は、展示スペースが昨年度比126%と大きくなり、通路も広くなって、展示が見やすくなりました。又、ファミリー向けの催しが充実するなど、イベントとして、かなり充実してきました。

私たちJOFI大阪は、大盛況の「船釣り教室」「波止釣り教室」のインストラクター、「放流募金活動」では大釣協のブースでの放流募金活動、大阪府海域美化安全協会のブースでは、「大阪湾環境美化運動」で、子供達に大人気の「おさかなカンバッチ作り」や「パンフレット配布」海域の現状について説明を行いました。なお「カンバッチ」は今年も好評で、約600個を作成しました。日頃、私たちは釣りの手ほどきをさせていただいていますが、ショーに入場された皆様が、釣り技術だけではなく、マナーやルール、自然を守るための知識などに併せて興味を持っていただければと思います。（報告　石川）

報告 2 第13回「ほっといたらあかんやん大阪湾フォーラム(H29-3/4)

平成29年3月4日（土）第13回ほっといたらあかんやん「大阪湾フォーラム ~まあるい大阪湾・須磨でひっぱりだこ~」が須磨水族館で開催されました。須磨水族館エントランス特設ステージで、高校生の報告から始まり、兵庫県から県立尼崎小田高等学校が「マイクロプラスチックは有機化学物質を吸着するのか」「尼崎港運河の水質調査とヘドロ改善の研究」の2件、松陰高等学校からは「サンゴを次世代に残したい」、西宮今津高等学校の「アマモの水槽栽培実験」大阪府からは、府立泉鳥取高校が「フィール ドワーク部の活動報告」として、川や海の水とゴミによる生き物の関わりについての調査報告があり、高校生が真剣に自然を保護するために、自分達は何を知る必要があるのか、また何が出来るのかの発表があり会場から感嘆の声が上がっていました。（報告　物部）

報告 3 第21回JOFI大阪定時総会(H29-3/26)

JOFI大阪をこれからのをどのような方向に進めるべきか、転機の第21回定時総会を、4月23日(日曜日)に総合学園ヒューマンアカデミー大阪心斎橋校で開催しました。來田代表の挨拶で、夢舞大橋の今後の予定、現在初心者への釣り指導を実施している南港魚釣り公園護岸の方向性などについてのお話しがありました。

来賓として全日本釣り団体協議会の綿井良隆常務理事から、JOFI大阪の活動状況は他府県JOFIより活発であり、進んでいる旨のお話をいただきました。また、塩見孝男相談役から若者が多く参加することが当会の発展に繋がるので、そのためには何が必要でどうすべきかを、ご挨拶の中でご提案をいただきました。

定数確認を事務局が報告し、議長に中河内副代表の辻哲男氏を選出して議事を開始しました。年々減少している会員数に対する施策や平成28年度の活動状況が前年度より減少していること、平成29年度収入確保をどの様にするべきかなどに質問があり、本年度がより良い活動ができるよう全員で活発に討議を行い、了承を求める事項と決議を求める事項について、全員一致で賛同して議事を終了しました。（報告　物部）

報告 4　水中清掃作業報告(H29-6/3)

日本釣振興会大阪府支部主催で、平成29年6月3日(土)に西鳥取漁港で、大阪府支部のメンバーと漁業港関係者や協力ダイバー、私達インストラクターも協力し総勢20数名で水中清掃活動を実施しました。

ダイバーは潜水服を身に付け、海に飛び込んで海底清掃を開始、水中清掃作業は、1時間30分ほど続けられそれなりのゴミが海底から引き揚げられた。最後に、回収したゴミは、それぞれ分類して重量を計測しました。

初めて水中清掃活動に参加し、釣り人のゴミが多く引き上げられるかと思っていたが少なくて安心しました。

しかし、釣り具で「タコジグ」「エギ」「折れた竿」等も引き上げられたので、釣り人への注意喚起の必要性を感じました。(報告　辻)

報告 5　第10回大阪湾生き物一斉調査(H29-6/10)

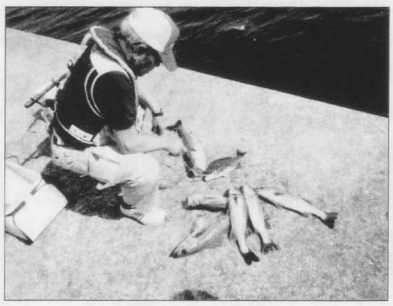
大阪湾生き物一斉調査は、大阪湾沿岸で活動する様々な団体が参加して、各地の生き物を一斉に調査する取り組みで、今年で第10回目を迎えました。

私達JOFI大阪では毎年、堺２区「友海（ゆかい）ビーチ」での釣獲調査を担当しており、今回も早朝4時から10時まで調査を実施しました。

結果、エビ撒き釣り6名で、40Cm以上～60Cm未満のハネクラス12尾。60Cmを超えるスズキクラス２尾の計14尾、さらに、30Cm程のマチヌ１尾の釣果がありました。

午後からは13時30分頃の干潮に合わせ、生物共生護岸（人工干潟）での生き物採取調査がおこなわれ、幼稚園児から親御さんまで20名を超える一般参加者がありました。特に珍しい発見はありませんでしたが、例年どおり、カニやスジエビ類、ゴカイ類、ボラやハゼ類の幼魚など多様な生き物が見られ、干潟は生命のゆりかごを再認識しました。そして、何よりも生き物に目を輝かせる子どもたちの姿が印象的でした。なお、この調査の結果は、大阪湾各地の水環境を把握する基礎資料になるとともに、秋には結果報告会も予定されています。

(報告　室井)



「FJC賞」の表彰式で

来田仁成さん（右）

報告 6　釣り業界の大賞「ＦＪＣ賞」来田仁成代表受賞(H29-6/26)

釣り業界に貢献した個人や団体に贈られる「ＦＪＣ賞」の2016年度の受賞者が、来田仁成さんに決定。表彰式が先月26日、東京都内で行われた。

同賞は東京中日スポーツを含むスポーツ紙や釣り雑誌、釣り専門チャンネルがメンバーの「日本釣りジャーナリスト協議会」（鈴木康友会長）が選定している。

来田さんは、主に関西地区で活動している釣りジャーナリスト。1968年から朝日新聞（関西版）の釣り欄で執筆しているほか、1976年創刊の釣り雑誌「週刊釣りサンデー」の初代編集長にも就任。長年にわたって、釣りについての健筆を振るい続けてきた。また、これまでに公益財団法人・日本釣振興会の 評議員や一般社団法人・全日本釣り団体協議会の 副会長理事など数々の要職を歴任し釣り文化の発展に貢献してきた。表彰式で、鈴木会長から賞状と記念品を受け取った來田さんは「大変光栄な賞をいただき、本当にうれしく思っています」とニッコリし、「もう少し頑張って、釣りの未来のために夢を描き続けたいと思います」と話していた。

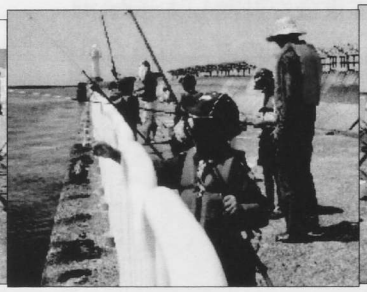
中スポ釣りナビニュース記事から転用（事務局）

報告 7　なみはや地区・かわち地区カブスカウト釣り教室(H29-8/20)

平成29年8月20日、大阪南港魚釣り護岸に於いて、なみはや隊員7名スタッフ4名,かわち隊員7名スタッフ5名、なみはや地区は午前９時より、かわち地区は午前９時半より釣り教室の開始、両隊とも挨拶の後ライフジャケットの装着、「すきすきフィッシング」を用いて釣り場での安全やマナー等の学習、その後各隊員に釣り具、エサ、ゴミ袋を配布し実釣の開始。

道具の扱いに少し慣れてくると魚も釣れ始め（イワシ10～12Cm、サバ15～20Cm、アジ10～15Cm）あちらこちらで隊員諸君の黄色い歓声もあがり、釣りを楽しんでくれたように思います。　当日風もなく暑さが一段と激しく、日陰を作る等今後夏場の釣り環境への配慮が必要と実感しました。

（今回の釣り教室で使用したサビキ仕掛けと、カゴはフィッシングエイト様よりご提供いただきました）（報告　辻）



報告 8　平成２９年度大阪湾稚魚放流に協力(H29-8/20)

※※　合言葉は「チヌの海ふたたび」　※※

第36回目の大阪湾稚魚放流が、朝から強い陽射しの中8月24日(木)に開催されました、私達JOFI大阪のインストラクターも5名が参加しました。稚魚放流場所の北港常吉大橋下(此花区舞洲常吉大橋)へ、出島漁港から20分ほどクルージング、到着すると報道機関のMBS（毎日）TVや稚魚放流に毎年協力してくれているボーイスカウトも15名が集合し、総勢59名になっていました。

セレモニーが橋本日本釣振興会大阪府支部長の挨拶から始まりまり、挨拶が終了すると、皆で協力し稚魚を船に積み替えるためのバケツリレーが行われました。

積み込みが完了すると、ボーイスカウト達が稚魚を放流する船と報道関係者の船に分かれ出船し、常吉大橋近くの海で稚魚を放流しました。

放流された稚魚は「チヌ」18,000尾「ヒラメ」5,000尾で元気よく海底へ泳いでいきました。

ボーイスカウトに感想を聞くと「ぴちぴち跳ねている魚が可愛かった」「バケツリレーは重かった」などで、来年も参加したいとの要望もありました。

無事に放流事業が終了し、私達も稚魚が元気で育ってほしいと願いながら出島漁港に帰港し、今日一日放流事業に参加協力できた喜びを感じました。

（報告　事務局　物部）

・ご寄付がありました。
　７月　野崎　美佐男　様　　８月　大西　勇　様　　有難うございました。

・ＪＯＦＩおおさか会員波止釣り大会の参加募集
　開 催 日　平成29年 11月12日（日）　　実釣場所　宇部波止
　集合場所　堺出島漁港　　（申込方法等詳細は同封別紙案内書）